

隠れ水俣病

<12>

胸が痛い悲劇

不知火は美しい海だ。それだけにこそ、隠れ水俣病の悲劇がきれた。私たちが心を突き刺す。

手ツツがこの海にたれ流した水俣量六十ト（食料側の発表）

結び取材ノートから

で、船大の推定では六百ト。一方の被害者で、なんの罪もないこの沿岸の人たちが、なぜ水俣病であることと、ひた隠しにしなければならなかったのか。それは一体、たれの責任なのか。

私たちはこれまで、新潟と水俣を対比させてきたが、行政の、医学の、地域性の、責任を明らかにしてきただけで、水俣病が病気の当初から、隠れた結果を生きた。行政の姿勢も、決してほめられたものではない。追跡調査につまずき、調査会の調査結果さえ

ささやかれ、隠れた人々の苦痛のなかで、まず隠された。加害者の手ツツに、なんらかのかかり合いを待つ人たちが多かった。加害者と被害者の関係が、混然としているのも、悲劇に拍車をかけた。

患者救済、助金の山本会長

「新潟のように、六十トも先の工場が原因の公害と水俣は違わず、補償問題とからんでいる点も違わず新潟との違いを強調している。

医学の面ではどうか。原因究明では、世界的な評価を受けた。新潟の研究も、究明だけに終わらず、現代的な調査などの、結果は、けがった。むしろ原因究明のため、典型例（等患）だけをとり上げ、顕微鏡で観察する結果を生きた。

明らかにしない秘蔵主義。本人申請制度という美名のもとに、

病の公費認定が難れたこと（四十二年）と、水俣病が公害病



行政の姿勢も、決してほめられたものではない。追跡調査につまずき、調査会の調査結果さえ

だが、この香いらい、これら「隠れ水俣病」への関心、取り組みにも、明らかな変化がみられるようになった。公害病研究代に入って、公害への世論がさらに高まったこと。「水俣病市民会議」や「水俣病を告発する会」

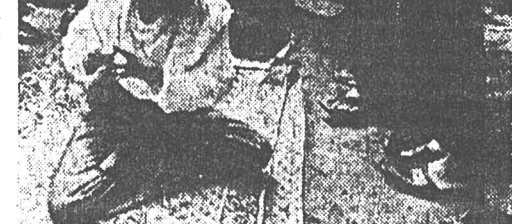
「県民会議医団」などが積極的な潜在患者の発掘をはじめ、未認定患者らの行政不服審査請求など、一連の努力が厚



「新しい変化も、しかし、それこれも、水俣

で「水俣病は二十八、三十五年発生」という神話が一打ちくたかれ、さらに「視野狭さく」を決め手としていた認定基準も、事実上の要を余儀なくされたのだ。

これと同時に、行政の姿勢にも、柔軟な態度がみえ始めた。知事交代という一つのチャンス



「これを裏づけるように、四月

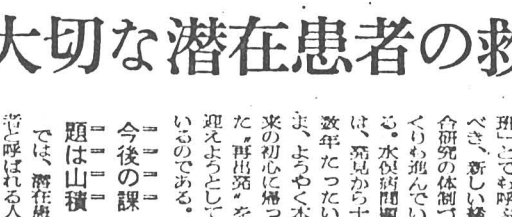
積極性ほしい行政

当面の急務、疫学調査

大切な潜在患者の救済

「水俣病」の行政の姿勢に、柔軟な態度がみえ始めた。知事交代という一つのチャンス

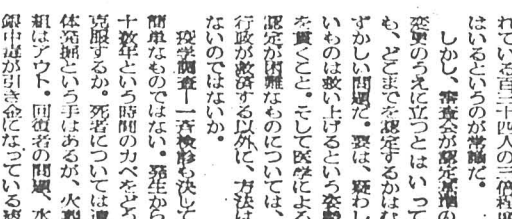
「これを裏づけるように、四月



「これを裏づけるように、四月

だが、汚染者と患者は違っても、柔軟な態度がみえ始めた。知事交代という一つのチャンス

「これを裏づけるように、四月



「これを裏づけるように、四月

不知火泊沿岸住民の毛髪水俣量 (35年~36年) = 東徳研調べ

	0~1	1~10	10~50	50~100	100~150	150~200	200~300	300以上	地区最高
御所浦	1.2%	11.0%	69.3%	15.6%	2.3%	0.2%			P 920
浦田	2.3%	25.3%	65.0%	5.7%		1.1%			167
田浦		18.2%	45.5%	33.3%			3.0%		200
湯田		2.5%	47.5%	47.5%		2.5%			192
津木			58.3%	37.5%	4.2%				139.4
保木		11.8%	59.8%	22.6%	3.9%	1.9%			191
水俣	3.5%	15.6%	50.3%	24.6%	5.5%	0.5%			172

「これを裏づけるように、四月